
【穎田病院で平成 27 年 1 月 1 日から平成 28 年 12 月 31 日までに当院より嚥下造影検査を受けた患者さん方へ】

当研究の対象者として該当される方にお知らせ致します。対象とされることを希望されない場合や疑問点などがありましたら、お手数ですが下記連絡先までご連絡ください。

【研究タイトル】

「穎田病院における嚥下造影検査^{*1}の実態について」

*1: 嚥下造影(えんげそうえい)とは、飲み込むことが困難な患者さんの状態を診るために、バリウムを混ぜた食べ物を食べながらその様子をレントゲンで撮影を行い、実際にどんなふうに食べ物が口からお腹に運ばれていくのか観察する検査のことです。

【研究背景・目的】

穎田病院で嚥下造影の検査を受けた患者さんについて、その後の経過や誤嚥性肺炎^{*2}との関連を検討しました。

*2: 誤嚥性肺炎(ごえんせいはいえん)とは、肺炎の原因となる細菌が、唾液や胃液と一緒に肺に流れ込むことによって起こる肺炎のことです。

【研究期間】

平成 29 年 1 月 17 日(倫理委員会終了後)から平成 31 年 4 月 30 日までです。

【研究対象】

対象者数：約 200 名

対象者：穎田病院で嚥下造影検査を受けた患者さん

対象期間：平成 27 年 1 月 1 日から平成 28 年 12 月 31 日までの上記患者さん。

取得情報：[患者基本情報] 性別、年齢、身長、体重、病名、基礎疾患、

ADL 状況、病名、誤嚥性肺炎の有無、転帰

[摂食のセルフケアレベル] 頸部の可動域、拘縮(後頸の有無)、上肢の麻痺の有無・程度・可動域、座位保持のレベル、自助具の使用の有無、自力で食事を摂取するレベル(摂取量、疲労度)

[嚥下造影検査関連項目] 検査実施年/月、実施方法とその経過
[臨床検査所見] バイタルサイン、CBC、CRP、生化学(血清アルブミン値、総蛋白値)、血液・喀痰培養、胸部レントゲン、胸部CT
[誤嚥性肺炎のリスク] 発熱、前胸部・背部の呼吸音、経皮的酸素飽和度、夜間の咳、食事中・食後の咳やむせ、痰の性状、量、食事による痰の増加と性状、頸部の聴診(液体振動音や副雑音)
[嚥下障害に関するアセスメント] むせ、咳嗽・痰、食物残留感、食欲・疲労、食事内容の変化、食べ方の変化
[嚥下テスト] ①流涎の評価、②嚥下(水飲みテスト)、③嚥下(半固形物)、④反復唾液嚥下テスト

【研究方法】

上記取得情報に関して穎田病院のカルテから情報を過去に遡って収集して、検査の適応について統計学的に検証します。

【研究対象となる患者さんへの利益・不利益】

利益：本研究により対象者が直接受けることができる利益は特にありません。しかし嚥下検査造形検査の適応が明らかになれば、肺炎の予防など、将来、社会的な利益につながるものと考えられます。

不利益：本研究は通常の診療により得られた情報のみを用いる研究であり、収集したデータに関しては、匿名化を行って使用しますので、患者さんご本人への直接的な不利益が生じることはありません。

【利益相反について】

この臨床研究は飯塚病院家庭医療コースの自主研究として実施するものであり、企業やその他、外部からの資金提供はありません。しかしながら、研究に参加する医師のなかには、この研究以外において外部から研究資金、講演会講師料、旅費等を受けている者もいます。この研究は「人を対象とした医学系研究に関する倫理指針」に基づき飯塚病院倫理委員会の承認を受けて適正に行われます。資金の提供があったとしてもそれが研究の結果に影響を及ぼすことはありません。

【個人情報の取扱い】

研究の際の個人情報の取り扱いは、研究責任者により厳重に管理され、外部への研究発表の際には患者さん個人を特定する情報は含まないようにして行います。

研究の対象となることを望まない旨の申し出があった場合には、ただちに研究対

象から除外します。なお、匿名化（データの識別のために個人を特定できる情報を番号・記号等に置き換えること）を行った後の患者さんの情報については、研究から除外できない場合もありますのでご了承下さい。

【研究組織】

研究責任者：飯塚病院 副院長・総合診療科 部長 井村 洋
研究分担者：飯塚病院 家庭医療コース 後期研修医 小田 隆太郎
 穎田病院 院長 本田 宜久
 穎田病院 吉田 伸
 飯塚病院 診療情報管理室／臨床研究支援室 古賀 秀信

【問い合わせ先】

〒820-8505
福岡県飯塚市芳雄町 3-83
飯塚病院 家庭医療コース(総合診療科) 氏名 小田 隆太郎
TEL：0948-22-3800（代表）
